

ChildFund
Alliance

Small Voices, Big Dreams 2013

子どもたちの小さな声 大きな夢



ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・アライアンスの加盟団体

- Barnfonden, Sweden
- Børnefonden, Denmark
- ChildFund Australia
- ChildFund Deutschland
- ChildFund International
- ChildFund Ireland
- ChildFund Japan
- ChildFund Korea
- ChildFund New Zealand
- Christian Children's Fund of Canada
- Taiwan Fund for Children and Families
- Un Enfant Par La Main, France

ミッション

チャイルド・ファンド・アライアンスは、子どもたちに機会を創出するため、世界の最も貧しい国々で子どもを中心とした国際協力活動を行う、効果的でグローバルなネットワークです。チャイルド・ファンド・アライアンスの各加盟団体が掲げるミッションは、子どもたちやその家族の抱える問題に対して、地域社会の発展に向けた長期的・持続的な解決策を実施することです。

貧困状況にある子どもたちのニーズを満たすために、チャイルド・ファンド・アライアンスの加盟団体はそれぞれの力を合わせ、活動の範囲と領域を統合・拡大します。私たちは、子どもたちの健全な成長を阻害する戦争、自然災害、貧困、HIV/AIDSなどの世界的な健康問題などに焦点をあて、子どもを中心とする、持続性のあるコミュニティ・ベースの開発事業を実施しています。

加盟団体は独自性を持ち、それぞれの組織形態によって運営されています。チャイルド・ファンド・アライアンスは子どもたちの声を伝え、事業のパフォーマンスや効率性、説明責任の世界的水準を維持する役割を果たします。

私たちは、まさに今、子どもたちを暴力と搾取から解放できる時代にいます。チャイルド・ファンド・アライアンスのキャンペーンにご協力ください。
www.freefromviolence.org



ぼくの国では、
楽に儲けようと
することが、暴力
を引き起こして
いるんだ。

ジョズエ (11歳)、ベナン共和国

謝辞

この調査を行うにあたり、考えや意見を伝えてくれた6,499人の子どもたちに心から感謝します。

この調査は、世界中の事業国で何週間もかけて子どもたちと話し、その内容を取りまとめたチャイルド・ファンド・アライアンスのスタッフの献身的な働きなしには不可能でした。

■リサーチ：Xiaoyan Zhao博士(Gfkローパー社グローバル・リサーチ部門担当上席副社長)、Asli Erenoglu(Gfkローパー社リサーチ部門長)

■報告・編集：Heather Wiseman

■グラフィック・デザイナー：Kate Shepherd

■写真：© Member of the ChildFund Alliance, 2013
表紙：ジョズエ(11歳)、ベナン共和国
裏表紙：ロコル(10歳)、ケニア

平和・暴力・ヒーロー(ヒロイン) ・幸せについて、子どもたちの声



本書は、チャイルド・ファンド・アライアンスが発表する「Small Voices, Big Dreams(子どもたちの小さな声 大きな夢)」の4回目の報告書です。今回の報告書も、子どもたちが暮らす世界への理解を深める手助けとなり、また大人たちがその声に耳を傾けることの大切さを伝えてくれています。

今回の調査では暴力と搾取に焦点をあて、自分暮らす地域にある暴力の問題について、子どもたちに考えてもらいました。また、どのようなときに安心と幸せを感じるかについても聞きました。

調査の結果、回答してくれた6,499人の子どもたちは、暴力から守られ、居心地の良い場所で生活をしているわけではない、ということが明らかになりました。10歳から12歳の年齢の子どもたちが暴力の原因を認識しており、どうしたら地域における暴力を防ぐことができるのか、自分の考えを持っています。

発展途上国の子どもたちは、貧困、家庭内暴力、社会的紛争が暴力の原因だと考えています。また、私が感銘を受けたのは、子どもへの暴力を減らし、子どもたちがより良い生活を送るためには、教育が重要であると、子どもたちが考えていることです。

発展途上国の子どもたちは、先進国の子どもたちと比べて5倍も、学校に通うことに安心と幸せを感じています。80%の子どもたちが「誰もが良い教育を受けるべきだ」と回答した東ティモ

ールのペドロ(12歳)の言葉からも、教育の重要性が伺えます。「雨が降って洪水になると、ぼくは学校に通えませんが、新しいことを学べないので悲しくなります。」

教育に関しての傾向は一貫していません。先進国の子どもたちより、発展途上国の子どもたちの方が、教師をヒーロー(ヒロイン)として捉えています。

先進国の子どもたちが考える暴力の原因は、やはり、発展途上国の子どもたちが考える原因とは違っていました。主にドラッグとアルコールを挙げています。オーストラリアのエリン(10歳)は、ドラッグとアルコールは家庭内暴力の原因であると語ります。「大人たちはアルコールとドラッグをとりすぎて、家族を傷つけたり、ひどいことをします。」台湾のリサ(12歳)はその理由について次のように考えています。「アルコールは大人たちの意思を弱め、精神を不安定にします。」

先進国の子どもたちの最優先事項は、教育ではなく、犯罪や暴力から身が守られることでした。教育が重要であることは認識していますが、平等であることや友だちといることを、安心や幸せと結びつけて考えていました。

調査によると、悪い行いが暴力の原因であると、世界の子どもたちが共通して考えていました。シンプルですが、まさに真実を表した回答です。また、もし自分が指導者だったら子どもたちを守るために何を優先するかとの問い

に、世界の子どもたちが共通して、法と規則を強化すると回答しました。

子どもたちにとって家族のメンバーは、お手本、教育者、影響を与える人として、非常に重要な役割を果たし、強い影響力を持つ存在であることが今年も示されました。世界中の子どもたちにとって、一番のヒーロー(ヒロイン)は家族です。子どもたちが家族とともに生活できるよう、さまざまな問題を克服するための活動を行っているチャイルド・ファンドにとって、心強い結果となりました。

平和の意味について、世界の子どもたちは声をそろえて「戦争がないこと」と語ってくれました。私は、次に多かった「調和と結束」という答えに深い関心を覚えました。この2つの概念は相互に関係はありますが、違う意味を持ちます。子どもたちは、両者を望んでいるのです。フィリピンのマーク(11歳)は、子どもたちの望む世界について、静かに核心をついた考えを語ってくれました。「人々は争っています。いつでも笑っているような世界がいいです」。

チャイルド・ファンド・アライアンス
事務局長 ジム・エマソン

調査に参加した世界の子どもたち



どんなときに、安心や幸せを感じますか？

世界の子どもたちは、家族といるとき(56%)や、友だちといるとき(21%)、学校(17%)や、家にいるとき(13%)、そしてゲームやスポーツをしているとき(11%)と答えました。

家族といるとき
アジア(45%)やアフリカ(43%)の子どもたちと比べて、北米・中南米の子どもたち(69%)が家族といるときに安心や幸せを感じると答えました。

友だちといるとき
友だちとの関わり合いが自分の幸せにつながっていると考える先進国の子どもたちは31%で、発展途上国の子どもたち(14%)よりも多くいました。スウェーデンでは47%の子どもが、友だちが第一で、家族よりも大切だと考えていました。オーストラリア(45%)でも同様に友だちの優先順位が高い結果となりました。

学校で勉強しているとき
先進国(5%)の子どもたちよりも、発展途上国の子どもたちにとっての方が学校の存在は大きく、25%の子どもたちが学校や教育に安心や幸せを感じています。学校が安心すると答えた割合はアジア(35%)で最も高く、特にネパールでは84%の子どもたちがそのように回答しました。

家にいるとき
発展途上国(9%)の子どもたちよりも先進国(19%)の子どもたちの方が、家を安心できる場所として挙げていました。スリランカでは、学校(25%)にいるときや、家族(20%)、友だち(4%)といるときよりも、家(27%)にいるときの方が安心すると答えました。メキシコの子どもたちにとっては、最も安心と幸せを感じられる場所は家(32%)でした。

ゲームやスポーツをしているとき
アジア(18%)の子どもたちは、ゲームやスポーツをすることによって安心や幸せを感じています。一方、先進国の子どもたちは7%と低い割合でした。

国別の傾向
ギニア(27%)やインドネシア(18%)、カンボジア(16%)の子どもたちが、もめごとと巻き込まれず、悩み事もなく、ぶたれたり痛めつけられたりしていないときに安心で幸せを感じると答えました。アフガニスタン(27%)やギニア(20%)、インドネシア(10%)の子どもたちは、平和で戦争のないことに安全と幸せを感じると答えました。



ユーゴー (11歳)はフランスの男の子です。フランスの子どもたちのおよそ四分の三が、家族といるときに安心と幸せを感じると答えました。「ママとブランケットと一緒にいるとき」



ソロンゴ(11歳)はモンゴルの女の子です。モンゴルの子どもたちの59%が家族といるときに、安心と幸せを感じると答えました。

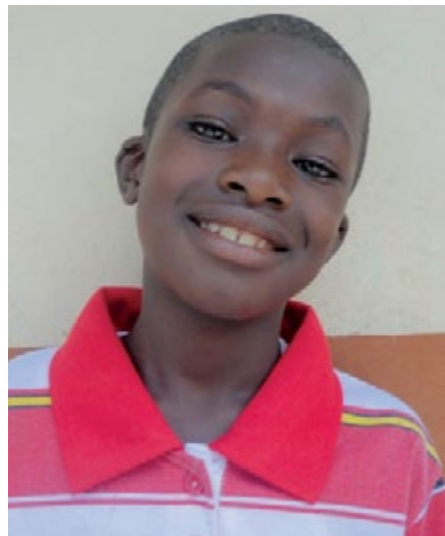


「ぼくは一週間に二回は叩かれていました。ぼくのお父さん、今は死んでしまったけれど、何の説明もなしに毎日ぼくを殴ることもありました。」

チン(12歳)、ベトナム



チン(12歳)はベトナムの男の子です。ベトナムの子どもたちの約半数が家族といるときに、安心と幸せを感じると答えました。8%が、もめごとと巻き込まれず、悩み事もなく、ぶたれたり痛めつけられたりしていないときだと答えました。



モドゥ(10歳)はガンビア共和国の男の子です。ガンビアの子どもの、約三分の一がゲームやスポーツをしているとき、12%が家族といるときに安心や幸せを感じると答えました。モドゥの夢は、プロのサッカー選手になることです。「学校で一番好きな場所はサッカーのグラウンドと教室です。」



ハンサナ(11歳)はスリランカの女の子です。スリランカの子どもの27%が家にいるとき、20%が家族といるとき、安心と幸せを感じると答えました。「兄弟姉妹と遊んでいるときに、幸せだと感じます。」



クワートル(10歳)はラオスの男の子です。ラオスの子どもたちの82%が、家族といるときに安心や幸せを感じると答えました。「お父さんとお母さんといるときが幸せです。一緒に生活しているときや、ラグビーをしてもらえるときにそう思います。」



最近、通りはとても危ないです。仕事やお金をくれると言ってくる人は絶対に信じてはだめ。彼らの本当の目的なんて分かったものじゃないもの。

マリア・エミリア(12歳)、ボリビア

マリア・エミリアが暮らすボリビアでは、子どもたちの約80%が家族といるときに安心と幸せを感じると答えました。

どんなときに、安心や幸せを感じますか？

	世界全体	すべての 発展途上国	すべての先進国	アフリカ (発展途上国のみ)	アメリカ (発展途上国のみ)	アジア (発展途上国のみ)
家族といるとき	56%	50%	65%	43%	69%	45%
友だちといるとき	21%	14%	31%	12%	10%	18%
学校で勉強しているとき	17%	25%	5%	25%	12%	35%
家にいるとき	13%	9%	19%	7%	9%	11%
ゲームやスポーツをしているとき	11%	14%	7%	12%	14%	18%
基本的ニーズが満たされているとき	5%	6%	4%	10%	1%	5%
虐待されていないとき	3%	5%	2%	5%	4%	5%
平和(戦争がないとき)	3%	4%	1%	4%	2%	5%
信頼する人に囲まれているとき	3%	1%	4%	1%	2%	1%
好きなことをしているとき	3%	2%	3%	2%	2%	2%
健康な状態のとき	2%	2%	1%	4%	1%	1%
宗教的な環境・場所・神	2%	3%	1%	4%	3%	0%
安全な環境・近所	2%	1%	2%	1%	2%	2%
ペットといるとき	2%	0%	5%	0%	0%	0%

もし国のリーダーになったら、子どもたちを暴力から守るために、何をしますか？

暴力から自分の国の子どもを守るために、法律や規則を増やす(30%)、教育を改善する(12%)、一人ひとりの子どもの安全を確かなものにする(12%)と答えました。

法律や規則を増やす
権力があつたら法律や規則を増やすと、ザンビアの子どもたちの66%が回答しましたが、アフガニスタンでは1%の子どもしか言及しませんでした。
すべての先進国で高い割合の子どもたちが法律や規則を増やす、と答えました。特に韓国の子どもたち(52%)が高い関心を示しました。

教育を改善する
教育は、子どもたちを暴力から守るための役割を果たすと、発展途上国の子どもたち(17%)は先進国の子どもたち(6%)より強く考えていました。

一人ひとりの子どもの安全を確かなものにする
シエラレオネの子どもたちの40%が、国のリーダーとして一人ひとりの子どもの安全を守りたいと答えました。これはマリ(23%)とニカラグア(28%)の子どもたちにとっても最優先事項でした。エチオピア(27%)とグアテマラ(21%)の子どもたちにとっては二番目に優先される事項でした。

国別の傾向
家庭内暴力や虐待を止めることは、ベトナム(28%)の子どもたちにとって一番目に、メキシコ(21%)の子どもたちにとっては二番目に優先されることでした。

学校の建設はアフガニスタン(26%)やガンビア(21%)の子どもたちにとっては重要なことでしたが、他方、先進国の子どもたちはほぼ関心を示しませんでした。

銃を禁止することはアメリカ(21%)とカナダ(15%)の子どもたちにとって優先すべき事項でしたが、調査を行ったアジアとアフリカの国々では、銃の禁止を挙げた子どもはいませんでした。



クリストファ(10歳)はザンビアの男の子です。ザンビアの子どもたちの三分の二が法律や規則を増やすと答え、16%が教育の改善を挙げています。
「ぼくだったら、乱暴な人を逮捕して刑務所に送るよう、警察に頼むよ。」



ミン・ギュー(11歳)が暮らす韓国では、子どもたちの半数以上が法律や規則を増やすと答え、9%が教育を改善すると答え、9%が子どもたちのシェルターや保護施設を提供する、と答えました。
「ぼくは子どもへの暴力を防ぐための教育プログラムを始める。」



ぼくだったら、子どもに対して罪を犯したすべての人を厳しく罰する新しい法律を作る。
通学中の女の子をしつこくいじめる人を警察に逮捕させて罰する。アルコールは村の中の暴力をあおるから、売るのをやめさせる。

シュラヴァン(11歳)、インド



シュラヴァン(11歳)が暮らすインドでは、子どもたちの41%が法律や規則を増やすと答え、約20%が教育の改善を挙げています。



ヘイディ(10歳)が暮らすニカラグアの子どもたちは、一人ひとりの子どもの安全を確かなものにする(28%)、法律や規則を増やす(17%)、家庭内暴力を止める(10%)、シェルターや保護施設を提供する(10%)と答えました。
「わたしは子どもたちが虐待されないよう助けてあげたいです。彼らが安全だと思えるような家をあげたいです。」



マーセル(12歳)はベナンの子です。ベナンの子どもたちの三分の一以上が法律や規則を増やす、16%が家庭内暴力を禁止すると答えました。
「村のリーダーたちに手紙を書いて、ナイジェリアで子どもたちに児童労働させている大人たちを全員逮捕するべきだと話し合いたいです。」



ケイト(11歳)はニュージーランドの女の子です。ニュージーランドの子どもたちの約30%が法律や規則を増やすと答え、15%が一人ひとりの子どもの安全を確かなものにすると答えました。
「本当に両親と暮らしていきたいが、子どもたちに決めさせて。子どもたちは一緒にいて安心できる人と暮らすべきだもの。子どもには幸せと安全を感じられる場所が必要だわ。」



私は女性器切除(FGM)や児童婚、児童労働に立ち向かいたい。

ジバ(12歳)

ジバ(12歳)はマリの子です。マリの子どもたちの23%が一人ひとりの子どもの安全を確かなものにする、22%が法律や規則を増やす、15%が家庭内暴力を止めることを挙げました。

もし国のリーダーになったら、子どもたちを暴力から守るために、何をしますか？

	世界全体	すべての発展途上国	すべての先進国	アフリカ (発展途上国のみ)	アメリカ (発展途上国のみ)	アジア (発展途上国のみ)
法律や規則を増やす	30%	28%	33%	31%	31%	22%
教育を改善する	12%	17%	6%	18%	12%	18%
一人ひとりの子どもの安全を確かなものにする	12%	13%	11%	12%	16%	11%
シェルターや保護施設を提供する	7%	6%	8%	6%	8%	5%
暴力をやめさせる	5%	6%	4%	3%	5%	11%
家庭内暴力を止める	4%	6%	2%	5%	7%	6%
学校を建設する	3%	5%	0%	6%	1%	6%
銃を禁止する	3%	0%	6%	0%	1%	0%
基本的ニーズを提供する	2%	3%	1%	5%	3%	2%
ドラッグ、アルコールを禁止する	2%	1%	4%	0%	3%	1%
親による子の保護を確実にする	2%	2%	2%	3%	2%	2%
貧しい人たちを支援する	2%	2%	2%	2%	2%	3%

あなたの国で暴力が起こる一番の理由はなんだと思いますか？

世界の子どもたちは、悪い行い(規則の違反、怠惰、貪欲、嘘など)(29%)、貧困(17%)、アルコール(16%)、ドラッグ(12%)、そして社会的紛争(11%)が、暴力の原因だと答えました。

悪い行い(規則の違反、怠惰、貪欲、嘘など) 発展途上国の子どもたち(26%)よりも先進国の子どもたち(33%)の方が、悪い行いが暴力の原因になると考えています。

貧困
貧困が暴力の原因だと考えているのは、アフリカ(29%)やアジア(18%)などの、発展途上国(21%)の子どもたちです。

アルコール
カンボジア(90%)の多くの子どもたちが、アルコールが暴力の原因だと非難しました。モンゴル(53%)やオーストラリア(45%)、ベトナム(41%)、ニュージーランド(35%)、ポリビア(31%)、アイルランド(28%)でも、アルコールは、最も多い答えでした。

ドラッグ
発展途上国(8%)より、先進国(18%)の子どもたちの方が多く、ドラッグが暴力の原因であると答えました。カーボベルデ共和国(44%)、ブラジル(37%)、アメリカ合衆国(20%)で最も一般的な答えでした。(アメリカ合衆国の子どもたちは同じ割合で銃(20%)も挙げています)。

社会的紛争
社会的紛争は、ケニア(50%)とガーナ(45%)の子どもたちにとって最も大きな暴力の原因でした。

国別の傾向
ニカラグア(68%)では驚くほど高い割合の子どもが、家庭内暴力が暴力の主な原因であると答え、パラグアイ(38%)、エクアドル(32%)があとに続きました。家庭内暴力と答えた子どもの割合は、アフリカ(8%)やアジア(9%)と比較して、北米・中南米(20%)で高い結果となりました。

アフガニスタン(70%)、東チモール(36%)、ラオス(29%)の子どもたちが、戦争や争いが暴力の主な原因であると答えました。

世界全体では、比較的少数の子どもしか政治的腐敗と答えませんでした。シエラレオネ(47%)は例外で、子どもたちは政治的腐敗を暴力の原因として第一に挙げました。

世界全体(4%)でいじめが暴力の原因であると答えた子どもたちはわずかでしたが、日本(17%)とフランス(13%)では高い割合を占めました。



カメロン(12歳)はカナダの男の子です。カナダの子どもたちの37%が暴力の原因は悪い行いであると答え、貧困(16%)や銃(11%)より高い割合となりました。「カナダでの暴力の大きな原因は、ドラッグとギャングだと思う。」



リサ(12歳)は台湾の女の子です。台湾の子どもたちは、悪い行い(41%)、アルコール(28%)、社会的紛争(16%)を暴力の原因としました。「アルコールは大人たちの意思を弱め、精神を不安定にします。」



子どもたちへの暴力が起きないように、警察官に話したいです。

リディア(11歳)、ウガンダ

リディア(11歳)はウガンダの女の子です。暴力の原因としてウガンダの子どもたちは、31%が悪い行い、22%が貧困、22%が家庭内暴力を挙げました。



エリン(10歳)はオーストラリアの女の子です。オーストラリアの子どもたちの約半分が、アルコールが暴力を引き起こすと答え、次いでドラッグ(32%)、悪い行い(32%)と答えました。

「私の国で一番多い暴力は、アルコールやドラッグからくる家庭内暴力だと思う。大人たちの多くがアルコールやドラッグをとりすぎて自分の傷つけたり、ひどいことをしている。購入できるアルコールの量を制限することで、これをやめさせることができると思う。」



モニカ(11歳)が暮らすパラグアイの子どもたちは、家庭内暴力(38%)や犯罪・犯罪者(25%)、ドラッグ(14%)が暴力を起こしていると答えました。

「暴力が起きるのは、教育が十分じゃないから。」



アビゲール(10歳)はケニアの男の子です。ケニアの子どもたちの半分が社会的紛争が暴力の原因になっていると答え、悪い行い(24%)が続きました。



ディエゴ(11歳)はブラジルの男の子です。ブラジルの子どもたちの三分の一以上が悪い行い、21%がドラッグが暴力の原因だと考えていました。

あなたの国で暴力が起こる一番の理由は何だと思いますか？

	世界全体	すべての 発展途上国	すべての 先進国	アフリカ (発展途上国のみ)	アメリカ (発展途上国のみ)	アジア (発展途上国のみ)
悪い行い(規則の違反、怠惰、貪欲、嘘など)	29%	26%	33%	28%	28%	20%
貧困	17%	21%	10%	29%	11%	18%
アルコール	16%	13%	21%	6%	11%	25%
ドラッグ	12%	8%	18%	5%	17%	7%
社会的紛争	11%	13%	8%	16%	5%	15%
家庭内虐待・暴力	10%	11%	9%	8%	20%	9%
戦争・争い	9%	10%	9%	7%	6%	15%
教育の欠如	8%	12%	2%	13%	9%	11%
犯罪者・犯罪	7%	7%	6%	6%	15%	4%
政治的腐敗	4%	6%	3%	6%	7%	4%
いじめ	4%	1%	7%	0%	2%	2%
銃	2%	1%	4%	0%	2%	2%
嫉妬	2%	1%	2%	1%	1%	2%

ヒーロー(ヒロイン)は誰ですか？

世界の子どもたちにとってヒーロー(ヒロイン)は家族(46%)であり、次に政治的リーダー・活動家(11%)が続きました。

家族

ガーナ(5%)の子どもたちとは対照的に、カンボジア(93%)とザンビア(81%)の子どもたちは家族こそがヒーロー(ヒロイン)だと考えています。世界的に、多くの子どもたちが、特に好きな家族に両親を挙げました(36%)。

政治的リーダー・活動家

政治的指導者や活動家は、先進国(5%)よりも、アフリカ(27%)などの発展途上国(16%)の子どもたちに高く評価されていました。

国別の傾向

パラグアイの子どもたちにとって、架空のキャラクター(56%)がヒーロー(ヒロイン)として絶大な人気を得ていました。(その中でも特にスーパーマン(13%)がよく挙げられました。)

メキシコ(27%)とフランス(25%)では架空のキャラクターがよく挙げられる一方で、日本(1%)やアメリカ(1%)を含む多くの国ではほとんど挙げられませんでした。

全体を通して、歴史上の人物をヒーロー(ヒロイン)として挙げる子どもたちはほとんどいませんでしたが、唯一の例外はインドでした。インドの子どもたちは高い割合で歴史上の人物(23%)を挙げ、特にマハトマ・ガンジー(17%)やスバス・チャンドラ・ボース(5%)の名前を挙げました。

トーゴ共和国ではスポーツが強い影響力を持っていて、子どもたちの30%はスポーツ選手がヒーロー(ヒロイン)だと答えました。特に、トーゴ出身のサッカー選手、エマニュエル・アデバヨール(21%)は伝説だと考えられていました。

教師をヒーロー(ヒロイン)だと回答したのはガーナ(35%)やネパール(40%)の子どもたちで、北米・中南米(1%)よりもアジア(10%)やアフリカ(9%)の子どもたちに重要と考えられています。



セバスチャン(11歳)はエクアドルの男子です。エクアドルでは、家族(69%)に次いで、聖職者・聖人(9%)や架空のキャラクター(7%)が高い割合でした。「ぼくのヒロインはママ。ママは、正直で責任感があって、時間を守って、簡単にあきらめないような、立派な人間でいるように教えてくれる。」



カウサダ(12歳)が暮らすガーナでは、教師(35%)が子どもたちに最も人気のあるヒーロー(ヒロイン)で、政治的リーダー・活動家(25%)、医者・看護師(15%)がそれに続きます。



私のヒーロー(ヒロイン)は先生です。先生は、私たちにいろいろなことを教えてくれるし、進むべき道を示してくれます。

サラスウォティ(12歳),ネパール

サラスウォティ(12歳)はネパールの女の子です。ネパールでは、教師(40%)が一番のヒーロー(ヒロイン)で、家族(25%)や友だち(10%)が続きます。



アビーナ(11歳)はトーゴの女の子です。トーゴの子どもたちの約三分の一がスポーツ選手をヒーロー(ヒロイン)に挙げ、政治的リーダー・活動家(26%)、家族(14%)がこれに続きます。



フェリシテ(10歳)が暮らすブルキナファソでは、子どもたちの22%が自国の政治的リーダー・活動家をヒーロー(ヒロイン)として挙げ、18%が家族を、14%が教師を挙げました。
「私はブルキナファソのファーストレディ、ブレース・コンオレ大統領夫人みたいな人になりたい。彼女は子どもたちのことを気にかけてくれるから。」



シーフラ(11歳)はアイルランドの女の子です。アイルランドでは、ヒーロー(ヒロイン)として家族(31%)の次にスポーツ選手(18%)が挙げられました。

アンジ(11歳)はラオスの女の子です。ラオスでは家族(57%)と、政治的リーダー(9%)がヒーロー(ヒロイン)として尊敬されていました。



私のヒーロー(ヒロイン)はお医者さんです。私もお医者さんになって、貧しい人たちを助けてあげたいです。

アンジ(11歳)、ラオス

ヒーロー(ヒロイン)は誰ですか？

	世界全体	すべての 発展途上国	すべての先進国	アフリカ (発展途上国のみ)	アメリカ (発展途上国のみ)	アジア (発展途上国のみ)
家族	46%	44%	48%	35%	54%	49%
政治的リーダー・活動家	11%	16%	5%	27%	3%	11%
架空のキャラクター	5%	4%	6%	0%	13%	2%
教師	5%	7%	1%	9%	1%	10%
スポーツ選手	5%	4%	6%	7%	1%	1%
聖職者・聖人	4%	6%	3%	3%	18%	1%
芸能人	3%	2%	4%	2%	1%	4%
友達	2%	2%	2%	2%	1%	2%
医者・看護師	1%	2%	1%	3%	0%	1%
警察官	1%	1%	2%	1%	1%	1%
歴史的人物	1%	1%	1%	0%	0%	4%

平和とは、どんなことですか？

世界の子どもたちは戦争のない状態(26%)と定義し、次に調和・結束(20%)、暴力のない状態(16%)、幸せ(16%)、心の平穏・静穏(12%)と定義しました。

戦争のない状態

戦争のない状態は、発展途上国(19%)の子どもたちよりも先進国(34%)の子どもたちにとって、平和の核心として考えられています。

調和・結束

調和・結束は、アジアと北米・中南米において、一番に挙げられました。特にラオス(60%)、ネパール(57%)、マリ(48%)、スリランカ(42%)や東ティモール(42%)で高い順位でした。

暴力のない状態

発展途上国(12%)の子どもたちと比較して、先進国(21%)の子どもたちの方が多く、暴力のない状態であると答えました。これはドイツ(32%)、オーストラリア(26%)、アメリカ合衆国(25%)やベトナム(25%)の子どもたちに顕著でした。

幸せ

アフリカでは19%の子どもたちが幸せと答え、特にリベリア(54%)、シエラレオネ(50%)やガーナ(36%)で高い割合でした。ベトナム(40%)の子どもたちにとっても、平和とは幸せであることと理解されていました。

心の平穏・静穏

ボリビア(39%)、アフガニスタン(34%)、ドミニカ(30%)、セントビンセント(30%)、パラグアイ(30%)の子どもたちにとって、心の平穏・静穏が最も一般的な平和の定義でした。

国別の傾向

エチオピア(32%)では愛が最も一般的な平和の定義でした。ラオス(53%)とケニア(20%)でも、愛が二番目に挙げられました。

自由は、他のどの地域よりも、アフリカ(14%)の子どもたちにとって大切な意味を持ちます。トーゴ(31%)、ザンビア(31%)、ウガンダ(16%)では、自由が最も一般的な平和の定義でした。リベリア(41%)、シエラレオネ(41%)では、幸せに次いで自由が二番目に挙げられました。

カンボジアの子どもたちは犯罪のない状態(31%)が平和であると考え、暴力のない状態(26%)、幸せ(19%)が続きました。



アルベルト(10歳)はカボベルデの男の子です。カボベルデの子どもたちの38%が戦争のない状態と答え、20%が調和・結束、19%が幸せと答えました。



ヒルマ(11歳)が暮らすスウェーデンでは、44%の子どもたちが平和を戦争がない状態、22%が調和・結束と答えました。

「私にとって平和は、人々が平安に暮らして、すべてが穏やかで、すべての人に自身の意見を持つ権利があることです。」



連帯感、愛、地球を守る方法を知ること。

ティス(12歳)、ラオス

ティス(12歳)はラオスの男の子です。ラオスでは、60%の子どもたちが調和・結束、53%が愛と答えました。



エリカ(10歳)はグアテマラの女の子です。グアテマラの子どもたちは25%が平和とは幸せ、24%が調和・結束を意味すると答えました。



マーク(11歳)はフィリピンの男の子です。フィリピンでは、子どもたちの三分の一が平和とは調和・結束を意味すると答えました。
「人々は戦っています。いつでも笑っているような世界がいいです。」



ヨシュア(12歳)の住むドイツでは、半分の子どもたちが平和とは戦争のない状態であると答えました。



マヌエル(12歳)はメキシコの男の子です。メキシコでは、子どもたちの24%が平和とは戦争のないこと、16%が幸せを意味すると答えました。
「争いではなく、自由であること、正直であること。」



戦争がないことが
平和だと思う。

シナムール(12歳)、ベナン共和国

シナムール(12歳)はベナン共和国の男の子です。ベナン共和国では、子どもたちの36%が平和とは戦争のない状態であると答えました。

平和とはどんなことですか？

	世界全体	すべての 発展途上国	すべての先進国	アフリカ (発展途上国のみ)	アメリカ (発展途上国のみ)	アジア (発展途上国のみ)
戦争のない状態	26%	19%	34%	22%	13%	20%
調和・結束	20%	22%	19%	15%	21%	31%
暴力のない状態	16%	12%	21%	9%	17%	11%
幸福	16%	17%	14%	19%	16%	16%
心の平穏・静穏	12%	11%	13%	6%	20%	12%
安全な状態	9%	6%	14%	7%	7%	4%
愛	7%	9%	5%	7%	13%	10%
自由	6%	8%	4%	14%	4%	3%
お互いに尊敬し平等であること	6%	4%	9%	2%	7%	5%
基本的ニーズが満たされていること	4%	5%	3%	8%	1%	4%
家族とともにいること	3%	4%	2%	2%	8%	4%
友情	4%	3%	2%	4%	5%	
問題や悩みがなく暮らせること	3%	3%	2%	4%	5%	2%
犯罪がない状態	3%	2%	4%	1%	2%	4%
健康						

マイ・ワールド

子どもたちに、16の選択肢から、自分と家族にとって最も大切なものを6つ選んでもらいました。この16の選択肢は、国連が実施したMy World(マイ・ワールド)調査からのものです。この調査は、子どもたちと大人にとっての、世界をより良くするための優先事項を特定する目的で実施され、調査結果は、世界のリーダーがポスト2015年開発目標を決定するにあたって活用されます。

良い教育を受けること

世界の子どもたちが第一に選んだのは、誰もが良い教育を受けること(65%)で、先進国(55%)よりも発展途上国(72%)の子どもたちの方が高い割合で選びました。北米・中南米(80%)では教育は圧倒的に支持され、特にパラグアイでは98%という、調査全体の中で最も高い割合の子どもたちが、この項目を選びました。

犯罪や暴力から守られること

二番目にランクしたのは、すべての人が犯罪や暴力から守られること(53%)でした。これは、先進国(48%)の子どもたちよりも発展途上国(61%)の子どもたちの心に響いたようです。

男女間の平等

世界の子どもたちは、男女間の平等を三番目に選びました。これは、アフリカ(40%)、アジア(48%)、北米・中南米(45%)の三つの地域で一貫した結果で、先進国(48%)、発展途上国(44%)も同様でした。モザンビーク(79%)、ドイツ(66%)やリベリア(48%)では、男女間の平等が一番に選ばれました。

より良い保健医療

より良い保健医療は四番目の順位で、先進国(32%)と比較して、特にアフリカ(57%)の子どもたちが高い優先事項だと回答しました。シエラレオネ(83%)、ブラジル(77%)、セネガル(73%)やメキシコ(70%)の子どもたちにとっては、非常に大切な問題でした。

誠実で意見を聞き入れる政府

世界の子どもたちは、誠実で意見を聞き入れる政府を五番目の優先事項に挙げました。これは北米・中南米(51%)の子どもたちにとって大切で、ホンジュラスの子どもたちの70%がこの選択肢を選びました。カンボジアの子どもたちも強い関心を示し、76%が優先事項のうちの一つに選びました。



シーナ(11歳)はカンボジアの女の子です。カンボジアでは、子どもたちの77%が誰もが良い教育を受けられることを、76%が誠実で意見を聞き入れる政府を挙げました。



ローリー(12歳)が暮らすホンジュラスでは、子どもたちのほとんどが、誰もが良い教育を受けられることを選び、70%が誠実で意見を聞き入れる政府を選びました。



セリーネ(11歳)はセネガルの男の子です。セネガルでは、子どもたちの81%が安全な水へのアクセスや公衆衛生を選びました。



雨が降ると、洪水
になると、学校
に通えなくなります。
新しいことを学
べないのが悲し
くなります。

ペドロ(12歳)、東ティモール

ペドロ(12歳)が暮らす東ティモールでは、子どもたちの80%が誰もが良い教育を受けられることを選びました。

あなたと家族にとって、最も大切なことはどれですか？

	世界全体	すべての 発展途上国	すべての先進国	アフリカ (発展途上国のみ)	アメリカ (発展途上国のみ)	アジア (発展途上国のみ)
良い教育を受けること	65%	72%	55%	66%	80%	74%
犯罪や暴力から守られること	53%	48%	61%	48%	52%	43%
男女間の平等	46%	44%	48%	40%	45%	48%
より良い保健医療	44%	52%	32%	57%	52%	47%
誠実で意見を聞き入れる政府	44%	46%	40%	41%	51%	50%
安全な水へのアクセスや公衆衛生	43%	45%	41%	51%	39%	42%
差別や迫害が無いこと	42%	36%	49%	32%	42%	37%
働くことができない人への支援	40%	40%	39%	38%	38%	46%
安くて栄養のある食料	37%	35%	41%	44%	24%	30%
自然環境への保護	36%	30%	46%	23%	41%	30%
気候変動への行動	29%	21%	41%	19%	21%	23%
家で電気や水道が使えること	29%	32%	25%	36%	30%	29%
道路が整備されていること	25%	32%	16%	31%	29%	35%
電話とインターネットへのアクセス	21%	22%	21%	24%	15%	24%
より良い仕事の機会	19%	23%	13%	25%	22%	23%
政治的な自由	17%	16%	18%	20%	10%	16%



調査方法

Small Voices, Big Dreams (子どもたちの小さな声 大きな夢)の調査は、2013年5月～9月の間に、チャイルド・ファンド・アライアンスによって実施されました。発展途上国の多くが非英語圏にある中、チャイルド・ファンドのスタッフが、地元言葉で一人ひとりの子どもにインタビューを行いました。英語圏にある先進国では、オンラインでインタビューを行ったところもあります。

非英語圏の回答は、すべてチャイルド・ファンドのスタッフが翻訳しています。報告書に記載されている子どもたちの声は、翻訳の過程でその内容の信頼性が損なわれないよう細心の注意が払われていますが、若干の編集が行われている可能性は残っています。

調査は、10歳から12歳の子どもたちを対象に、47カ国で行われ、アフリカ、アジア、北米・中南米にある36カ国の発展途上国と、11カ国の先進国の子どもたちが参加しました。

発展途上国からは3,766人、先進国からは2,733人、合計6,499人の子どもたちが調査に協力しました。

6つの質問のうち5問は選択項目の無い自由記述形式で、1問は16の項目から6つを選ぶ選択式です。

翻訳されたすべての回答は、分析のためGfKローパー社に送られました。



ラチュナ(11歳)はインドの女の子です。インドの子どもたちの約半分は、貧困が暴力の原因であると考え、17%は社会的紛争が原因であると考えています。「インドで暴力が起きる一番の理由は、カースト制度だだと思います。ある人は社会的に高い地位にありますが、それ以外の人々は低カーストだという理由で、悲惨な生活を強いられています。この不平等が暴力を生みます。だから、すべての人が平等になれば、暴力を無くすことができます。」

質問回答者の年齢および性別

	世界全体	すべての発展途上国	すべての先進国	アフリカ (発展途上国のみ)	アメリカ (発展途上国のみ)	アジア (発展途上国のみ)
男の子	47%	47%	47%	44%	50%	48%
女の子	53%	53%	53%	56%	50%	52%
10歳の子ども	27%	28%	25%	27%	36%	22%
11歳の子ども	32%	30%	36%	30%	30%	28%
12歳の子ども	41%	43%	39%	43%	34%	50%
合計	6,499	3,766	2,733	1,629	910	1,227

先進国

	回答者数	全回答者に対する%
オーストラリア	202	3%
カナダ	406	6%
フランス	264	4%
ドイツ	200	3%
アイルランド	100	1%
日本	138	2%
韓国	101	1%
ニュージーランド	1,000	15%
スウェーデン	103	1%
台湾	101	1%
アメリカ合衆国	118	2%
合計	2,733	42%

アジア (発展途上国のみ)

	回答者数	全回答者に対する%
アフガニスタン	100	1%
カンボジア	110	1%
インド	212	2%
インドネシア	100	1%
ラオス	100	1%
モンゴル	101	1%
ネパール	100	1%
フィリピン	100	1%
スリランカ	102	1%
東ティモール	102	1%
ベトナム	100	1%
合計	1,227	19%

アフリカ (発展途上国のみ)

	回答者数	全回答者に対する%
ベナン	101	1%
ブルキナファソ	100	1%
カボベルデ	102	1%
エチオピア	101	1%
ガーナ	102	1%
ギニア	103	1%
ケニア	100	1%
リベリア	106	1%
マリ	100	1%
モザンビーク	101	1%
セネガル	100	1%
シエラレオネ	102	1%
ガンビア	100	1%
トーゴ	107	1%
ウガンダ	100	1%
ザンビア	104	1%
合計	1,629	25%

アメリカ (発展途上国のみ)

	回答者数	全回答者に対する%
ボリビア	102	1%
ブラジル	100	1%
ドミニカ、セントビンセント	100	1%
エクアドル	107	1%
グアテマラ	100	1%
ホンジュラス	100	1%
メキシコ	100	1%
ニカラグア	100	1%
パラグアイ	101	1%
合計	910	14%

